

仲間と全力を尽くす中で、 より良い価値を生む関係の あり方を学ぶ

愛媛県立松山東高校

●愛媛県立松山東高校 運動会 概要

「愛媛県立松山東高校のスクール・アイデンティティーが具現化された行事」と言われるのが、9月に行われる運動会だ。まずは5月初旬に、全校生徒が学年縦割りの4グループ（青柳・紫雲・紅樹・黒潮グループ。各グループ約260人の生徒で構成）に分けられ、それから、5月のリレーカーニバル（リレー、綱引き、応援合戦を行うミニ運動会）、7月のボートレース大会をグループ対抗で競い合う。それらの行事を通して学年・クラスを超えた絆を深めた上で開かれる運動会は、まさにグループ活動の集大成と言える。

同校の運動会の最大の特徴は、生

徒の自主性を最大限に尊重する点にある。各グループの指揮を執るのはグループ長（1人）と副グループ長（4人）であり、グループのメンバーは、運動会を運営するために必要な作業を分担する「パート」に所属する。パートには、260人の生徒が乗ることが出来るやぐらを竹と縄だけで組み上げるパート、やぐらを飾る巨大なパネル絵を作るパート、運動会中に披露する10分間の劇をつくるパートなどがあり、それぞれパート長の指示の下、運動会本番に向けて夏休み中から準備を進める。グループ長、副グループ長、パート長の選出、メンバーのパート分け、そして企画の全てが、生徒主導で進められる。

生徒が語る



愛媛県立松山東高校
2年生（理系クラス）
梶原夕希 かじはら・ゆうき

同じ目標を持った仲間が支え合い、 時に衝突し、お互いを高めた

運動会に向けて、 グループの団結力を高めます

毎年5月、グループ別に初めての集会が開かれます。約260人のメンバーを前に、グループ長と副グループ長が運動会に懸ける自分の思いを述べるのですが、今年度、私のグループでは、先輩全員が「一人ひとりが役割を持ち、みんなで運動会をつくり上げたい」ということを話していたのが印象的でした。

それから2週間経つと、リレーカーニバルがあります。グループが初めて団結して臨む行事です。私も1年生の時、リレーカーニバルを経験して、「学校行事って楽しいなあ」「これからはもっと積極的に参加していこう」と思いました。7月のボー

トレース大会の頃には、グループの中のいろいろな人と学年やクラスを超えて仲良くなりました。

運動会の準備は、パートごとに進めます。やぐらを組むパート、やぐらを飾るパネル絵を作るパート、応援合戦でのダンスの振り付けをするパートのほか、劇、大道具などいろいろなパートがあります。私は1年生の時に応援パートでしたが、2年生では他のパートを臨機応変に手伝う「ヘルプ」というパートを選びました。それぞれのパートがどんな仕事をしているのかを知りたかったからです。実際、いろいろなパートを手伝うことで、例えばやぐらの組み上げ方など、何十年にもわたって先輩から受け継がれてきた技術、伝統のすごさを知ることが出来ました。



愛媛県立松山東高校

◎旧制愛媛県松山中学校以来の伝統を持つ。「より高く、より広く、より深く、そしてより豊かに」をモットーに、人間の魅力のあるリーダーの育成を標榜。野球部、サッカー部、ボート部、俳句部、囲碁・将棋部など、伝統、実績に秀でた部も多く、高いレベルでの文武両道を目指す。スーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校。

◎1878（明治11）年設立。全日制・通信制／普通科／共学。1学年約360人。2014年度入試では、国公立大は、東京大、京都大、大阪大、愛媛大、九州大などに202人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大などに延べ404人が合格（現役のみ）。〒790-8521 愛媛県松山市持田町2-2-12

<http://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/>

目標が同じだから、衝突することもあります

夏休み中は、補習が終わってから夕方6時の下校時間まで、ほぼ毎日準備作業をします。パート長の指示に従いつつも、グループのためにな

ると思つたら、下級生でも上級生に対して自分のアイデアを遠慮せずに言える雰囲気があります。

ただ、良い運動会にしたいと全員が強く思っているからこそ、意見がぶつかってしまうこともあります。私のグループでも、グループ長と

パート長の意見が折り合わず、議論が延々と続いた時期があったようです。でも、3年生の先輩がすごいのは、そうした様子を見せようには極力見せないようにしているところです。3年生がおろおろしていると、後輩たちを心配させてしまうので、議論は1・2年生が帰ってからするようにしていたと、後から先輩に聞きました。

先輩の後ろ姿を見て気付いたことは、みんなが1つの目標を目指す時には、自分が主体となって行動するだけでなく、他の人の主体性も尊重し、それを引き出す心配りが大切だということです。そして、意見が対立した時に、衝突を恐れて自分の意見を引っ込めるよりも、相手の意見と自分の意見のそれぞれの良いところを生かし、新しい展開へとつなげていく粘り強さが必要なのだと分かりました。

写真 運動会の準備風景



やぐらを飾るパネル絵を作る生徒たち。パネル絵の大きさは横幅24メートル。運動会の午前と午後で掛け替えるため、各グループで2枚ずつ制作する。

運動会の本番直前、大道具が壊れてしまったあるグループを、他のグループが自分たちの作業を止めて手伝う場面を見た時、「松山東高校の運動会の成功」は全員が目指す目標なのだと確信しました。

**全力を尽くした経験は
受験にも生きると思います**

運動会を2度経験して、先生や保

護者が生徒の自主性を尊重してくれていることを実感しました。私たちが信頼して任せてくれるのだから、私たちがルールはしっかり守らなければいけないと自覚しています。そうしないと伝統が途絶えてしまうことをみんな分かっています。

長い準備期間の中で、悩んだり、困ったりしたこともたくさんあったはずですが、運動会が終わった今はどれもささいなことに思えます。それだけ運動会本番は盛り上がったし、楽しかったです。最後に校歌を歌った時は、たくさん生徒が泣きました。もちろん、私もです。

「目標に向けて全力を尽くした運動会の経験は、受験にも生きると思う」と、私は何人もの先輩から聞きました。確かに先輩を見ると、運動会の準備期間中も、昼休みなどに英単語帳を広げていました。そういう先輩の姿を見たから、私も勉強はちゃんとやりました。

今、私は医療系の学部を志望しています。もともと医療に興味があったのですが、運動会での経験を通して、自分は人と話すのが好きだと気が付き、人にかかわる仕事に就きた

いという気持ちが強くなりました。

来年度は、グループ長か副グループ長になりたいと思っています。先輩に憧れて、リーダーの仕事を希望する人はたくさんいるので、競争率はとても高いです。グループ長と副グループ長は、同じ3年生の仲間から「この人にはまとめる力がある」「この人は決断力がある」と評価さ

教師が語る



愛媛県立松山東高校
石丸隆祥 いしまる・たかよし
教職歴1年。同校に赴任して2年目。進路課。

生徒主体だからこそ 教師に出来る支援を見極める

**困難を自分で乗り越えてこそ、
生徒主体になるのです**

本校の運動会は、基本的に生徒たちの力だけでつくり上げる行事です。各グループにおいて生徒は自分たちでそれぞれの役割を決め、企画を考えます。運動会のおよそ1か月前、7月の下旬には、応援席となる

れた上で、最終的には希望者同士の話し合いで決められます。自分の力量を見極められるのはしんどいですが、もしも希望がかなわなかったら残念ですが、それは仕方ないことです。グループ長や副グループ長になれなくても、同じ目標に向けて自分の役割を全うすればいい……きつと誰もがそう思っているはずですよ。

巨大なやぐらを組むために必要な竹を、山に取りに行くのですが、土地の所有者への許可申請、伐採、そして竹の運搬なども3年生を中心にして生徒主体で行います。運動会に関する全てのことは、先輩から受け継いだことであり、3年生にはそれを後輩に伝えていく使命もあります。

私も同じ愛媛県の公立高校の出身

です。私の母校も学校行事は盛んですが、松山東高校がユニークなのは、確かに3年生が中心だけれども、1・2年生にも役割がちゃんとあるところだと思っています。やるべき仕事がない生徒は1人もおらず、逆に言えば、全員が協力しないと運動会が成り立たないのは、この学校の運動会の特徴と言えます。

そうは言っても、運動会の準備が始まった直後は、1年生の中には自分は何をすればよいか分からず、手持ち無沙汰な様子の生徒もちらほら見られます。2年生にしても、1年生の時と違うパートに入れば、何をすればよいかすぐには分かりません。そうした生徒を見付けては、3年生のパート長が「こんな仕事があるよ」「次はこの作業が待っているからね」と説明します。そうして何日か経つと、全員が最終的な運動会の完成形をイメージできるようになります。そうすると、1年生からパート長に「この作業の進め方は、このように変えた方がよいと思います」などと提案する場面も見られるようになるのです。

運動会の準備に、生徒は本当に一

写真 運動会当日の様子



竹と縄だけで組み上げたやぐらの上に260人の生徒が乗り、応援時にはその上で跳びはねる。やぐらの近くに飾り付けられた巨大な人形の制作、更に劇づくりなど、様々なパートが限られた時間で作業を進め、運動会本番を迎える。

思うのです。ただ、全力を尽くすことは、何であつても口で言うほど簡単ではありません。私は、それを多くの生徒に経験させてくれるのが、みんなが頑張る運動会なのだと思うのです。運動会で、大きな目標を達成する感動を味わうだけでなく、そこに至るまでの苦しみを共有する仲間をつくるのが出来れば、それが松山東高校の生徒として全員で受験に向き合う姿勢へとつながるはず。

運動会を終了直後、生徒たちはグループごとに集まり、それまでの努力をたたえ合います。多くの生徒が感極まり、涙するその傍らで、生徒が余韻に浸れるように、保護者、私たち教師、そしてこの日のために帰省した卒業生が、静かに片付けを進めることも何十年と続く伝統です。松山東高校にとって、運動会是最も大切な行事なのです。



生懸命取り組みます。だからこそ、企画内容や作業の進め方を巡って、衝突することもあるようです。議論するうちに、感情が高ぶってしまった生徒の様子を目にしたこともあります。そんな時、私が「こうすれば解決する」と性急に割って入っては、生徒たちのためにはなりません。「こんな考え方もある」とアドバイスすることも時にはありますが、基本的

誰もが全力を尽くせるのが運動会なのだと思います

には生徒たちに任せています。私たち教師は、下校時間が来た時に、「今日はもう帰りなさい」と言うだけです。困難を自分たちの力で乗り越えてはじめて、生徒主体の行事になるのだと思います。

私は、「やりたいことは全力でやってほしい」と生徒によく話します。そして、進学校なのだから勉強をするのは当たり前で、それ以外の遊びや趣味、部活動などにも全力を尽くしてほしいと伝えていきます。そうした経験がないと、受験勉強で自分自身を追い込むことは出来ないと思うのです。

運動会は、確かに生徒主体の活動です。しかし、生徒主体であり続けるためには、私たちが教師だからこそ出来るサポートとは何なのかを見極めることが大切です。例えば、校外で行うポートルースや竹取りなどの本校の伝統行事をこれからも地域の人たちに理解してもらえるよう企画した、学校としての地域への奉仕活動などは、教師だから出来る配慮だと思っています。また、グループの運営をグループ長などに任せる一方で、彼らと面談を重ねながら、後輩に対する見方、接し方をより豊かにするように働き掛けていることもその1つです。

運動会を終了直後、生徒たちはグループごとに集まり、それまでの努力をたたえ合います。多くの生徒が感極まり、涙するその傍らで、生徒が余韻に浸れるように、保護者、私たち教師、そしてこの日のために帰省した卒業生が、静かに片付けを進めることも何十年と続く伝統です。松山東高校にとって、運動会是最も大切な行事なのです。